

2022年10月13日(木) 19:30~21:00

## 令和4年度

### 第3回 セミナー 学級の困った！を一人で抱え込まないで

議事録作成 玉置ゼミ7期生 下野 綾巳

#### 【今回の困りごと】

##### ▼学びの必用感 (5年生)

授業には参加する(発言もある)が、理由や考え方、算数の計算式やノートを書くことを嫌がる。宿題も同様で、漢字ドリルはやるが、漢字ノートに繰り返し書いて練習することはやらない。

##### ▼自治的能力の高い学級づくり (6年生)

悪いことやルールが守れないことなどに、「だめだよ」と、しっかり声を上げられる学級づくりができないか。

##### ▼机の整理整頓 (3年生)

なかなか机の上を整理できない子どもへの指導

##### ▼先生が頼り (5年生)

赤ちゃんがえりしてしまった子への指導

##### ▼ゆっくりな生活 (1年生)

生活全般、行動が遅い子がいる。朝の準備なども時間に間に合わない。一言、声をかけても、すぐに忘れて、ぼーっとしてしまう。

特性もあるため、仕方がないと思うが、前と比べて早くなって欲しいと思う。

#### 【内容】

##### ▼学びの必用感 (5年生)

授業には参加する(発言もある)が、理由や考え方、算数の計算式やノートを書くことを嫌がる。宿題も同様で、漢字ドリルはやるが、漢字ノートに繰り返し書いて練習することはやらない。

- ・ノートに自分の考えを書かない/グループ共有をしない
- ・漢字ノートの繰り返し練習は書かない

- ・「やれない (出来ない)」ではなく、「意図的にやらない」
- ・1度も「ノートを書きなさい」と言ったことはないが、**文章で伝える力をつけて欲しい**
- ・みんなが考えを書いている時に話すことは良くない＝今は迷惑をかけないなら良い

### 《他の先生方のご意見》

- 賢いから「取り組む意味が見出だせない」
- そういう子も巻き込める子とグループワークをさせたらどうか
- やらないと思っていないから、やらない
- 昨年度そういった子がいた。(＝教室に入らない／勉強をしない)  
今年度は、必要に駆られたのか「今日は国語をやる」等の選択ができるようになった。  
**必要性**を感じたら取り組むようになるかもしれない

### 《玉置先生のご意見》

- 沢山書かせることは本当に意味があるのか？  
先生の自己満足なのではないか
- 先生の願いを伝えることが◎
- 先生が諦めない**  
先生が諦めずに指導することは、周りの子が聞いている。＝先生の信用に繋がる

### 《和田先生のご意見》

- 書かない子の2パターン
 

1. 分かっているから書かない
  2. 何を書いていよいよのか分からないから書けない
- 必用感**がない  
小学生の問題は、頭の中で考えれば書かずに済むかもしれない。  
中学生になると、書かなければ答えが導くことが出来ない問題と出会うことになる。  
「いつかこのぐらい書く時がやってくるよ。」と伝えておく。
- 人の思考は邪魔しない**  
授業中に、仲間が考えている時間に話すことは許さない。  
それは、人の思考を邪魔することになるから。
- 家庭学習の工夫

自分がやりたいものに置き換える。

ただ習慣は付けさせたいから、**能力に応じた家庭学習を選択**させる。

### ▼自治的能力の高い学級づくり（6年生）

悪いことやルールが守れないことなどに、「だめだよ」と、しっかり声を上げられる学級づくりができないか。

- ➡・学校の端末でオンライン対戦ゲームのサイトを閲覧（禁止事項）
  - ・7～8人で閲覧しており、中堅層も含まれている。
  - ・禁止事項を止めるのではなくて、自分は一線引ける様になってほしい。
  - ・みんなで良い方向に向かえる学級にするためには？
  - ・都度話をすると、頷きもあり、伝わっている手応えはある。
  - ・9月～10月は、「断る勇気」について話した。

#### 《他の先生方のご意見》：自治的能力の高い学級集団について

- 集団で染まってしまう時の対応は、その都度話すことが思い浮かぶ。
- 「だめだよ」は言わせない。⇔「やりたい」ことを伝えられる学級づくり  
「○○しよう」の提案の伝え方が責任感を生む  
聞こえたときは、こっそり褒めたり、みんなを止めてみんなの前で褒める。

#### 《和田先生のご意見》

- 自治的能力の高い学級集団づくりの手立て

##### 〈教師の願い〉

「やらない」を言える子に育てたい。  
「だめだと、やめようよ」は、ハードルが高い。

##### 〈今の子ども現状〉

今の子どもは、イエスマン  
嫌われたくない  
仲間はずれにされたくない

##### 〈自己判断〉

YES のときは、仲間を売るのではなくて「はい、やりました」という覚悟。  
それが嫌なら NO を言う。  
自己判断できる子にしたい。

### 〈授業でできること〉

「分からない」を言って良い／「思ったこと」を言って良い  
その環境づくりがNOを伝えられる第一歩となる。

言える自信をつける授業づくり

### 〈いじめ対応〉

NOを言える子は、されて嫌なことを伝えられる子になる

### ▼机の整理整頓（3年生）

なかなか机の上を整理できない子どもへの指導

- ➔ ・作業している道具が増える
  - ・机の上に何もない状態で授業に望む
  - ・机の周りにもものが落ちている子
  - ・要らないものまで増えていく
  - ・整っている子を褒めて皆が動くようにしたり、一緒に整える等の手立てを実践中

### 《他の先生方のご意見》

- 心配性だから机に物が溢れてしまうのかもしれない。
- 何かを探す時に、出した物（出た物）がそのまま机の上に出されている。
- 手立てとして、声をかけることを実践している。

### 《和田先生のご意見》

- 帰りの会での提案

### 〈お片付けタイム〉

週に1回開催

- ①机の中のものを全て出させる
- ②要らないゴミは、先生がゴミ袋を持って回収
- ③持って帰るものは、ランドセルに仕舞って持って帰る

### 〈ゴミ拾いゲーム〉

大きなゴミから3つ拾うゲーム

### ▼先生が頼り（5年生）

赤ちゃんがえりしてしまった子への指導

➡・圧で周りを押さえつける子ども（かまってほしい・注目を引きたい）

・行動が幼稚園児

例）交流学級の先生が「幼稚園児みたい」と漏らす

ぐるぐる走り回る

グループワークで手が空くと走り回る

授業中、急に「お腹すいた」「暑い」と言い出す

- ・父親がスポーツチームの監督であり、強く指導を受けている背景がある（母親も悩む）
- ・学習に意欲がない訳ではなく、気分が乗ると取り組める
- ・キレると止まらず、他の子に危害を加えるため別室で落ち着くまで話を聞いていた。
- ・授業中声掛けを増やし学習に向かえるようにしていた。
- ・背景を汲み取りすぎて「受け入れすぎてしまった」かもしれないという反省がある。

### 《和田先生のご意見》

●父親の指導がお手本になっている

厳しい指導を受けていることから、「キレると止まらない」は父親をお手本にしている

●受け止め先があったことが幸せ

「受け入れすぎた」のではなく受け止めてもらえる場所があったことがその子にとって幸せなこと＝先生を頼りにしている証拠

●段階を教えてあげる

「〇〇は、できるようになったから先生はもう声はかけに来ないけれど、次〇〇ができるようになったらまた声をかけるね。でも、困ったときは必ず先生が助けるからね。」と段階を見せてあげる。

行動が幼稚に見えるのは、次に自分がどうしたら良いか分からないから。

●家庭と学校の声掛けを同じに

母親に相談し、段階を家庭と共有する。

### ▼ゆっくりな生活（1年生）

生活全般、行動が遅い子がいる。朝の準備なども時間に間に合わない。一言、声をかけても、すぐに忘れて、ぼーっとしてしまう。特性もあるため、仕方がないと思うが、前と比べて早くなって欲しいと思う。

→・自閉症の診断がある

・「支援員さんがいれば普通級も可能」という医者という言葉で普通級にいる

### 《他の先生方のご意見》

●低学年は周りとの差があまりない／周りの子も感じていないはず

= 支援はするが対応は同じでありたい

●やることが理解できていた子どもに

4つの砂時計を用意（1分／3分／5分／10分）

やることに対して、どの砂時計で時間をはかるか自分で選択させた

### 《和田先生のご意見》

●保護者の気持ち

保護者は、自分の聞き入れたい心地よい情報を担任に伝える。

耳が痛い辛い情報はカットする。それは、自分の子どもが可愛いから。

保護者と話すときは、保護者にはそういった気持ちがあることを知り対応すること。